



コスタリカで学んだ「生き方」と「幸せ」 安房を盛り上げる牽引力に

出口 洋さん 彫金工房「富銀」主宰
Hiroshi Deguchi

地域経済を回すためには、地元企業の価値を高め、地元雇用を継続することが大切だ。
Uターン移住で故郷・安房に戻った、元グローバルマーケターの信念と思い。
地域の市民生活を支える地元企業を盛り上げ、地域の存続に貢献していく。

子どもたちに 『ふるさと』を残すために

コロナ禍で在宅勤務を取り入れる企業や団体が増え、都心から少し離れた地域で暮らしたいと考える人が増えている。そんな人たちに人気なのが千葉県南房総の安房地域。ここでは、2017年からインバウンド観光のバックアップや外国人向けの情報発信、観光プログラムの開発などを手掛ける「外国人観光客を安房に呼び込み隊」が活動している。この活動の仕掛人であり隊長を務めるのが、館山市で彫金工房を営む出口さんだ。

「安房の子どもたちが大人になったとき、いつでも帰ってこられる『ふるさと』とし

てこの地域を残してあげたいと思った」そう語る出口さんは、Uターンで故郷に戻る前は海外マーケティングの第一線で活躍する、百戦錬磨のマーケターだった。

海外で学んだ多様性 時代を読む先見性に

高校生の頃から、将来は自動車のデザインを仕事にして海外で暮らしたい、という明確な目標を持っていた出口さんは、会社を退職して青年海外協力隊に参加した。「赴任先のコスタリカは、自分の知っている外国とは流れる音楽も違えば人の距離感も違っていました。『海外=アメリカ』と疑わず、『世界は俺が回している』と意気揚々と生きてきた

自分に気づき、ショックを受けました」

家族の絆が強く、お祝い事があればみんな集まり、寄り添いあって生きているコスタリカの人々。一方、日本は家族間でも個人主義的で、お金があれば一人でも生きていけると思っている人がいる。どちらが幸せなのだろうかと考えた。海外の情報を簡単に入手できなかった時代に、自らの体験を通して世界の広さ





工房にて鑿を用いて彫金を彫り、ジュエリーやアクセサリー作りをする出口さん。



出口さんの作品の数々。彫金教室を開催しており、いつでも彫金体験ができる。



地元のホテルスタッフ向け研修の様子。企業の持ち味を十分に活かした事業展開に務めている。

を知り、人間の「生き方」や「幸せ」について考えた経験は大きかった。

帰国後、会社に復職し営業部門でマーケティングを担当すると、中南米での新型車のプロモーションを任された。コスタリカで培ったスペイン語と、現地の人々が喜ぶツボを押さえたスピーチは各国の店長たちのハートをつかみ、気が付けば年間100日を超える海外出張の日々。

「世界のどこに行っても日本車が走り、町の片隅には朽ち果てた古い車が放置されていました。鉄は30年もすれば朽ちていくけれど、ゴムやビニールはずっとその場に残ってしまう。出張先の美しいカリブ海を眺めながら考えました。たくさん作って、たくさん売るのも大事だが、それだけでいいのかと」

当時はまだ消費先行型の世の中だったが、そんな疑問をもった出口さんは同社を退職した。

マーケティング戦略で 地域を元気に

退職後、若い頃から続けていた彫金を仕事にするため専門学校へ通い、地元

の館山市に戻ったのは38歳の時だった。「今のようにフリーマーケット系のウェブサイトもない時代、ホームページで地道に作品を売りながら塾講師をするなど、5年ほどは家族を養うために必死でしたね」今では、工房を営みながらオーダージュエリーの制作や彫金教室などを開催する一方、別の顔も持っている。

地元で企業経営する高校時代の友人と一杯飲みながら話す機会も増え、マーケティングで世界を渡り歩いた話をする「社員にもその経験を聞かせて欲しい」と頼まれるようになった。海外でも国内でもマーケティングの基本は同じ「売りは何だ？客は誰だ？」いつしか出口さんは、地元企業のコンサルタント業を請け負うようになった。

「地域での雇用継続こそが大事」と出口さんは力説する。安定した仕事があり、地元で晩ご飯のおかずを買い、子どもを育てていく。そんな当たり前の生活、市民の生きる基盤を作っているのが地元企業だが、過疎化や人口減少の影響を受けている。1ターン移住者が増えて起業も広がっているが、個人事業主レベルで長期継続が難しいのが実状だ。

出口 洋さん プロフィール

千葉県出身。千葉大学工学部を卒業後、日産自動車株式会社に就職。カーデザイナーとして6年勤めた後、退職して青年海外協力隊に参加。コスタリカの大学でデザインを教える。帰国後は復職し、海外マーケティングを中心に世界を飛び回る。38歳で地元に戻り、館山市で彫金工房「富銀」を開業。地元企業のコンサルタントや南房総エリアを盛り上げる「外国人観光客を安房に呼び込み隊」の隊長も務める。

「移住者が新規事業を起こすと新聞に取り上げられます。一方、古くからある地元中小企業の経営者たちは、多くの人を継続的に雇用していますが、誰にも褒められない、脚光も浴びない。でも、地域貢献の度合いはずっと大きい。私は、そこを大切にして、地域の存続に貢献したいと思います」人生経験豊かな出口さんからは、次々と地域活性化のアイデアが飛び出す。今はコロナ禍の影響でストップしている「外国人観光客を安房に呼び込み隊」の活動も、そのうち再開するだろう。

コスタリカで学んだ「生き方」と「幸せ」をもとに、大切な家族と暮らす地域の将来を想いながら、出口さんは故郷の地にしっかり足をつけて生きている。

出口さんへの エール！

株式会社三浦企業グループ
代表取締役
三浦 太さん



先天的な気質プラス協力隊経験の“力”に期待

高校からの友人である出口さんは、ぐるっと世界を見てまわってきた人なので、私のような跡継ぎ社長とは思考回路が違います。トップダウンの小さな会社でゆでガエルになりつつある私に、社外取締役としてズバズバ意見を言ってくれる。いい相談役になってもらっています。移住してきた新しい人たちを繋ぐ「ハブ」として、大いに活躍してくれることを期待しています。